

津山市教育委員会通信

【津山市教育委員会】

〒708-8501 津山市山北520

電話：0868-32-2112（教育総務課）

Eメール：kyouiku@city.tsuyama.lg.jp

新年のごあいさつ「可能性を引き出し、鍛え、伸ばす」



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に悩まされた1年でありましたが、各学校での様々な工夫や、家庭・地域と共に取り組んだ感染防止対策の徹底等により、児童生徒の学びを止めることなく学校教育活動への影響を最小限に抑えることができたと考えております。保護者、市民の皆様には、改めてコロナ禍での学校教育活動並びに教育行政へのご理解とご協力に厚くお礼を申し上げます。

今年の干支「寅」には、春が来て、草木が伸び始めるという意味が込められています。本市の教育も、コロナ禍を乗り越え、子どもたちの新たな可能性の芽を育て、鍛え、伸ばす一年にしたいと存じます。

さて、国のGIGAスクール構想により、昨年、一人一台端末の整備が完了しました。これに併せて、本市では、校内ネットワークの増強や、大学、企

業と連携したICTを活用した新たな学びへの研究を進めており、こうした成果をもとに、すべての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現してまいります。

また、昨年末には、新たな学力の目標値を掲げました。学力調査で全国を越えること、1時間以上の家庭学習を定着させることのほか、スマートフォン等の利用に関する家庭でのルールづくりを加えました。ネット依存やネット上のいじめなどトラブル増加等の現状を踏まえ、家庭も責任を持ち、児童生徒自ら利用時間やマナーを意識した適切な使い方について考え、実践できる力を養うことが必要と考えております。目標達成を目指し、学校と家庭、地域が一体となって取組を推進してまいりたいと存じます。

市民の皆様には、本年も本市教育の更なる充実に向けて、ご理解とご支援をよろしくお願いたします。

令和4年 新春

教育長 有本 明彦

現役Bリーグ選手と一緒に学べる～バスケットボールと食育～

B3リーグのプロバスケットチーム「トライフープ岡山」から、岡田陸人選手、前村雄大選手、頭山竜之介コーチを迎え11月28日に開催しました。

まず、津山市と包括連携協定を結ぶ「大塚製薬」から、体を作るために大切な「栄養・運動・休養」の3大要素について説明を受け、前村選手、岡田選手から普段の食事で気を付けていることなどを聞きました。

そして、お楽しみのバスケットボール教室を開催し、ボールの扱い方やドリブル、シュート練習、ミニゲームなどを選択手とともに体験しました。



【子どもの感想】

Bリーグ選手とバスケットをして良い経験になりました。選手は学生時代から食事について気を遣っているのので、僕も食事に気を遣いたいと思いました。

【保護者の感想】

子どもの時に、こういった体験ができることは良いことだと感じます。親子のふれあひもでき、地元でがんばるヒーローともふれあえて良かったです。

学力の新しい目標値

過去3年間の検証結果を踏まえ、校長会、教育委員の皆様にご意見を頂きながら、令和6年度に向けた学力の新しい目標値を設定しました。

目標値 (令和6年度)

(1) 全国学力・学習状況調査の偏差値(標準スコア※)50を小中学校ともに超える。

※標準スコア…全校平均の値を50とした時の相対的な位置を示す指標

(2) 家庭学習の時間を1日当たり1時間以上する。

目標: 小学校 70%以上 中学校 75%以上

(3) スマートフォン等の利用について時間・マナー等の家庭で決めたルールがある。

目標: 小学校 65%以上 中学校 60%以上

【目標値設定の理由】

(1) 標準スコア50を小中学校ともに超える

現在、小中学校ともに目標値50に近づいてきており、引き続き50を超えることを目指します。

(2) 家庭学習時間

1日当たり1時間以上行う割合が中学校では70%を超えたため、より高い数値を設定しました。小学校では目標値を維持しますが、小中学校ともに質や量の改善を目指します。



(3) スマホ等の利用に関するルールづくり

端末等の活用による学習が始まり、スマホ等の用途が多様化しています。

また、ネットトラブル等、危険な事例が全国的に多発していることから、子どもたち自ら利用時間やマナーなどを意識した適切な使い方について、保護者と一緒に考え、実践できる力を養うことが大きな課題となっています。

この課題を解決するため、使用時間だけでなく、家庭と連携したルールづくりを新しい目標値として設定しました。

「非認知能力」という言葉を聞いたことがありますか？

河辺小学校では、「非認知能力」の育成に取り組んでいます。「非認知能力」とは、学力などの数値化できる認知能力とは違い、自己肯定感、自制心

など「自分と向き合う力」や意欲や向上心など「自分を高める力」、協調性や社交性など「他者とつながる力」といった、数値化できない能力のことです。

この「非認知能力」を育成するため、授業では対話等を通じて、子ども同士のつながりや先生との豊かな関わりを広め、安心して自分の考えが発表できたり、友だちからの意見を受け止め、自分ごととして考え学習に取り組んでいます。

11月には、体育(マット運動)の授業が公開され、子どもたちは、タブレットを活用し、スムーズに回転するコツについて、アドバイス合っていました。



最初は、後ろ回りをするのができなかった子どもが、アドバイスを受けることで、できるようになりました。振り返りの場面では、友だちに感謝する姿や、お互いを賞賛する姿も見られ、あたたかい雰囲気になっていました。

学校で働きませんか？

募集

子どもたちが待っています！

小・中学校講師、英語支援員
スクールヘルパー(教育支援員)

随時募集中！

子どもたちの成長を支援してみたい方、学校現場への復帰を考えている方など、まずはお問い合わせください。

【応募資格】

- ◇小・中学校講師
⇒該当する教員免許状を所有している
- ◇英語支援員
⇒英検準2級相当以上の資格や技能を持っている
- ◇スクールヘルパー
⇒教員免許状の有無は問わない

【申込・問合せ】

市学校教育課 Tel.32-2115